

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココペリ		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ R6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	R6年 11月 1日		～ R6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就園・就学に向けた、基本的な生活習慣を身に付けるなど、社会的な自立を図れるように療育を行っている。	規則正しい時間でカリキュラムの提供、季節に応じた行事やリズム遊び、創作活動、絵本の読み聞かせなどを実施している。	近隣の幼稚園や小学校と連携を図り、地域の子どもたちとの交流を通して、地域や学校園に親しみが持てる環境の提供を検討。
2	他の事業所では行っていない、療育内で電車に乗って外出する戸外活動、食育を含めたクッキング、外部講師を招いた音楽や英語プログラムを取り入れている。	出かけたり、クッキングをしたりするのではなく、それらに療育的観点を取り入れながら活動している。利用児個々の個別支援計画の支援目標に関係する項目があれば、それらも意識しながら取り組んでいる。	公共施設(図書館や児童館)など、外部の機関との連携を図ることにより、より充実したプログラムの提供を検討。
3	当事業所は送迎を行っていないが、保護者が送迎することによって、お迎えの際にその日の様子をお伝えしたり、相談を受けたりできる。	利用当日の様子を見たまま伝えるのではなく、療育的視点も含めたお伝えができるようにしている。	保護者とのコミュニケーションスキルなど、職員の資質向上研修の実施。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育士や児童指導員任用資格を保有した職員は在籍しているが、理学療法士や言語聴覚士、臨床心理士などの専門資格を保有した職員が在籍していない。	同業種間で優秀な人材の取り合い、専門職員の不足、雇用の不安定、低賃金が原因と考えられる。	人材の確保と職員の定着を図るための労働環境の改善及び賃金アップや賞与支給が必要である。
2	面談や利用児の一時的な休憩場所として利用できる個室がない。	現在は、玄関先のエレベーターホールの空間を利用しているが、人通りがあり面談時に他者の目が気になるなど、落ち着かない空間となっている。	引き続き、面談スペースとして活用する場合、目隠しになる衝立の設置が必要である。
3	2024年2月に新築の建物に移行して療育を行っているが、建物の構造的な問題があり、利用児がケガをしやすい環境になっている。	廊下の床面が滑りやすいこと、コンクリートの構造物であり床が固いこと、角が多いことが怪我のリスクとなっている。転倒事故や打撲のケガが複数名発生している。	利用児には視覚的な掲示物や口頭で注意を促しているが、それだけでは防ぐことが出来ない。リスクがある部分には滑り止めやクッション材の設置など、細やかな対策が必要である。